

スタジアム整備計画の紹介

令和7年8月31日 ワークショップ
沖縄県文化観光スポーツ部MICE推進課／スポーツ振興課

(スタジアムイメージ)

1 事業対象地について

◆奥武山公園の概要

公園区域面積 約29.8ha

◆事業対象地

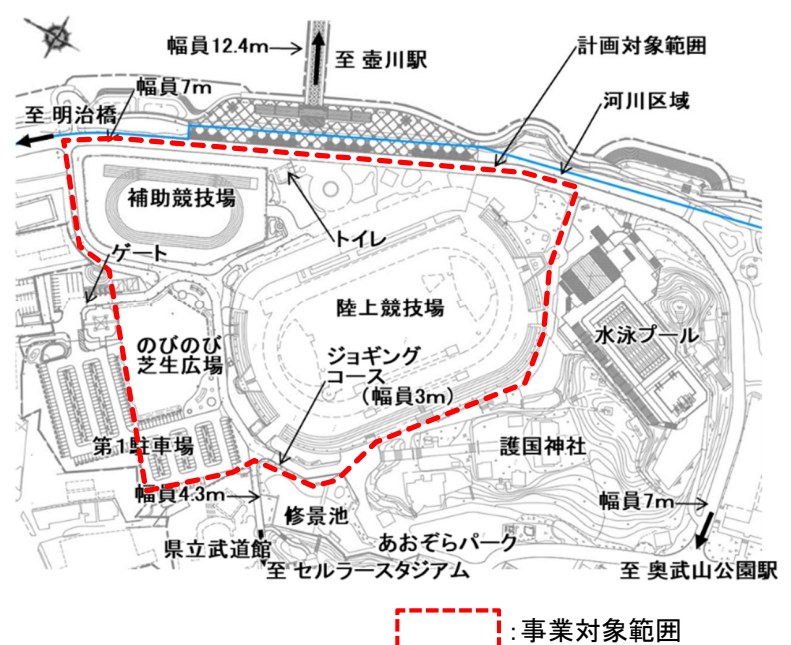
敷地面積 約6.2ha

(対象地内既存施設) 陸上競技場・補助競技場・のびのび芝生広場
第1駐車場(南側区画)

<公園全体図>



<対象事業周辺拡大図>



2 スポーツアイランド沖縄

沖縄県は、“スポーツアイランド沖縄”の実現に向けて、競技スポーツ及び生涯スポーツの振興を図るとともに、スポーツキャンプやイベントの誘致に取り組み、スポーツコンベンションを推進し観光振興に寄与することを目指しています。

スポーツアイランド沖縄の実現

観光振興

➤ 沖縄観光の魅力を高める 新たな観光拠点の創出

- ① スポーツを核とした多様なエンターテインメント空間の形成
- ② 沖縄観光の楽しむ選択肢を増やす新たな都市型リゾートの創出

人材育成

➤ 沖縄県の未来を担う 優れた人材の育成

- ③ 子どもたちに夢を与え、スポーツに取り組むきっかけづくり
- ④ スポーツをとおして、何事にも積極的に取り組む人材の育成

スポーツ振興

➤ 文化交流・国際交流等 多様な体験空間の創出

- ⑤ スタジアムや複合施設を活用した多様な体験の機会の創出
- ⑥ 試合がない時でも多くの人が集うにぎわい空間の創出

イベント開催

エンターテインメント性の向上

魅力的なスタジアム運営

アカデミーなどの育成体制の強化

競技人口の増加

県出身プロスポーツ選手の育成

ファミリー席やキッズスペースによる観戦環境の充実

国際大会の誘致

将来的に収容**2万人規模**のスタジアムを整備

国際大会

AFCチャンピオンリーグ など

Jリーグ

J1リーグ戦／カップ戦 など

日本代表

U-18以下
(オリンピック代表戦など)

★2万人の施設規模で開催が可能なサッカーの公式試合

2

3 スタジアムを整備する目的

◆ スタジアム整備の効果

競技利用の充実

高い競技環境の創出
競技レベルの向上

地域活性化の促進

にぎわい創出
観光振興

人材育成

子どもの体験機会
スポーツ産業人材の成長

スタジアム整備によって提供できる公共サービス

健康増進

スポーツに関わるきっかけ
心身の育成

スポーツ拠点 の創出

学生大会・国際大会
プロスポーツ

当初整備イメージ図

3

4 スタジアム整備の基本方針

◆ 上位計画の位置づけ

★第3期スポーツ基本計画【文科省】

スポーツの価値を高める視点として、
「つくる/はぐくむ」
「あつまり、ともに、つながる」
「誰もがアクセスできる」
の3つを掲げる

★新・21世紀ビジョン基本計画【沖縄県】

スタジアム、アリーナ、県内プロスポーツチーム及びトップアスリート等の地域資源を活用したまちづくり

★第2期沖縄県スポーツ推進計画【沖縄県】

- ・スタジアム周辺への産業誘因による地域の賑わい創出に資するスポーツ拠点の形成
- ・スポーツを通じた地域活性化、国際貢献の促進
- ・インバウンド獲得に資する新たな観光コンテンツの創出

★第6次沖縄県観光振興基本計画【沖縄県】

奥武山公園にJ1規格スタジアムを整備し、地域・観光交流拠点となるスポーツ施設の充実を図る

◆ 整備の基本方針



4

5 目指すスタジアム像

公共スポーツ施設は、利用者の観点から3つに整理できます。※優劣はありません

『使う』

競技をするためのスポーツ施設



【特徴】

- ✓ 開催する競技の種類（教育や住民による大会の開催、プロスポーツの開催等）に対応した規格とすることが必要
- ✓ 公共のスポーツ施設では、シビルミニマムの考えから、教育的側面に重点が置かれ、健康増進・スポーツ振興を目的に整備されることが多かった（≒従来の公共スポーツ施設）

『楽しむ』

観戦や体験も楽しむためのスポーツ施設



【特徴】

- ✓ 純粋な競技観戦だけでなく飲食等も含めた滞在（観戦体験）の時間を楽しんでもらうことが必要
- ✓ 「競技をするためのスポーツ施設」の要素を充足

『賑わう』 非試合日も賑わうスポーツ施設



【特徴】

- ✓ スポーツ施設としての機能だけではなく、複合施設や多目的施設としての機能を有することが求められ、サッカーファンだけでなく地域住民にも資する地域のシンボルとなる必要がある
- ✓ 「競技する」と「観戦や体験を楽しむためのスポーツ施設」の要素を充足

本事業で目指すスタジアム像は、**こっち↑**

5

6 県民・地域住民の利用について

<競技時のロッカールーム利用>



※長崎ピーススタジアム

<室内ウォームアップエリア>



※エディオンピースウィング広島

<観客席とピッチが近いことによる観戦体験の向上>



※長崎ピーススタジアム

試合がない日も賑わう地域のシンボルとして、

「競技利用、プロスポーツ観戦、スタジアムで開催されるイベントへの参加に加え、スタジアムの会議室及び飲食店の利用、一般開放されるコンコース（通路）や観客席、スタジアムの景観を楽しみながら隣接する広場エリア等のオープンスペースに滞在すること」

を県民利用とする整備に取り組みます。

<隣接の広場エリアと周辺店舗の利用>
(施工中の状況)



※エディオンピースウィング広島

<試合がない日の観客席利用>



※長崎ピーススタジアム

<試合がない日の観客席、コンコース、飲食店の利用>



※長崎ピーススタジアム

6

7 段階的な整備計画 <スタジアムイメージ（鳥瞰）>

ちょうかん

※イメージ図は、県民利用・賑わうスタジアムを表現したものであり、実際の配置・設計は、事業者提案で決定します。

★段階的な整備

スタジアムは、当初整備で観客席の規模を1万人程度とし、将来的な増改築により2万人程度へ拡張する段階的な整備計画です。

(主な採用理由)

- 段階的な整備に、県民・地域住民の意見をスタジアム整備、運営等に反映することを目指す
- 当初整備費及び維持管理費のコスト縮減、段階整備を含むライフサイクルコスト（建設から運営・維持管理までの総費用）縮減効果が期待
- 1万人規模の観客席と観客席を全て覆う屋根の整備により、Jリーグスタジアム基準（J1基準）の充足が可能

◆最終的な整備のイメージ（2万人規模の観客席）

段階的に屋根付きのサイドスタンドを増設



イメージ図

段階的に屋根付きのサイドスタンドを増設

◆当初整備のイメージ（1万人規模の観客席）



イメージ図

7

8 段階的な整備計画 <スタジアムイメージ（近傍）>

※イメージ図は、県民利用・賑わうスタジアムを表現したものであり、実際の配置・設計は、事業者提案で決定します。

★スタジアムの特徴 ※事業者に求める予定の整備条件

- 県内初の全観客席を覆う屋根付きのフットボールスタジアム
- 沖縄らしいスタジアム
- 植栽等による周辺との調和
- ファミリーボックス席やカウンター席等の多様なシートバリエーション
- スタジアム内に日常的に利用可能な店舗を併設
- 公園としてのオープンスペースとなる広場エリアの整備
- コンコースや観客席の日常的な利用

◆最終的な整備のイメージ（2万人規模の観客席）



イメージ図

◆当初整備のイメージ（1万人規模の観客席）



イメージ図

8

9 整備対象の施設

当初整備における対象施設は、観客席1万人規模の**スタジアム**、**広場エリア**と**立体駐車場**

- 広場エリアは、試合開催日の本スタジアムと一体となった賑わいの創出、既存イベント・まつり等の継続開催、試合のない平時の県民・地域住民の利用を目指します。
- 既存ジョギングコースは、スタジアム整備後も付替（ルート変更）により利用可能とします。

---: 事業範囲



当初整備イメージ図

9

10 スタジアムの主な機能・性能

★ 計画する主な機能・性能

※興行：観客入場料金等の発生するリーグ公式戦、イベント等

施設	施設機能の概要
スタジアム	・リーグスタジアム基準（J1規格）を満たす仕様とする（フットボールスタジアム、天然芝、すべての観客席を覆う屋根、ロッカールーム、室内ウォームアップエリア、車いす席、VIP席、ホスピタリティボックス、高密度Wi-Fi等の整備） ・観客席は、個席で当初整備1万人規模、段階整備で2万人規模 ・多様なシートバリエーション（シート、カウンター、ファミリーボックス席など）等の観戦体験向上に資する機能を有する ・ユニバーサルデザイン、LGBTQトイレ、チャイルドルーム、カームダウン・クールダウンルーム（気持ちを鎮めるための部屋）に配慮 ・試合等の興行※がない日も賑わいが創出される、飲食、物販、ミュージアム等の民間収益施設を設置 ・ホスピタリティボックスやVIPラウンジは、試合がない日に会議室等として利用が可能 ・興行時以外は、コンコースと観客席を開放 ※一定の制限（範囲、時間帯）あり
広場エリア	・県民・地域住民が自由に利用 ・スタジアムと広場エリアが一体となった利活用が可能となるように配慮 ・既存のイベントやまつり等の継続開催に配慮した整備、運営 ・民間収益施設について、一定のオープンスペースを確保した上で、賑わい創出等に資する施設の設置も可能
立体駐車場	・約300～400台程度の収容台数、利用料金制の導入を可能とする予定 ・興行時は、一部利用制限を想定

※整備時の周辺環境への配慮事項、事業者が提供すべきサービスの内容と満たさなければならない水準は「実施方針等」で示します。

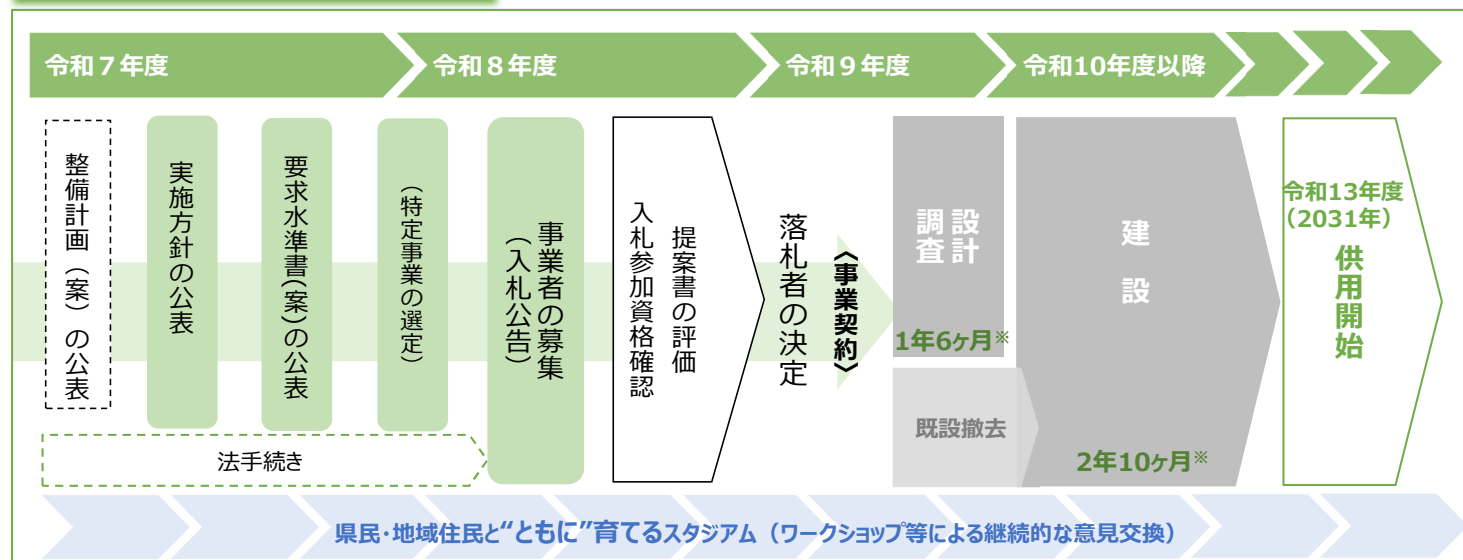
10

11 整備に向けたスケジュール

★ 予定スケジュール

事業者募集に向けた手続き

左記以外の手続き



※ スケジュールは想定であり、今後の県の事業手続きの進捗や、建設物価の変動、労働基準法の適用や資材・設備の納入状況による工期の延長等により変更する可能性があります。

○ 実施方針の公表

- 事業内容、選定方法、業務範囲等について公表し、事業参画を検討する民間事業者に対し、当該事業に関する情報を広く周知させるための手続き

○ 要求水準書（案）の公表

- 民間事業者の創意工夫を引き出すため、民間事業者が提供すべき業務（サービス）の内容と満たさなければならない水準を示す。

○ 特定事業の選定

- PFI事業として実施した場合の有効性について客観的評価及び公表を行い、最終的な事業条件等を確定させる。
- 客観的な評価は、定性的評価及び定量的評価を行う。定量的評価は詳細なVFM（バリュー・フォー・マネー）の算出を行う。

※ VFM（バリュー・フォー・マネー）
事業をPFIで行った場合、従来の公共事業手法と比べて何%コストダウンできるかを示す割合

11

12 県民・地域住民との意見交換について

- 行政と県民・地域住民が“ともに”育てるスタジアム”を目指し、ワークショップなどを継続的に開催する予定です。
- ワークショップでの意見とアイデアは、今後の計画や事業条件の検討、設計・建設及び運営・維持管理を担う**事業者の提案検討の参考となるよう活用。**

地域住民を対象としたワークショップ事例

● 三河安城交流拠点・アリーナ

項目	概要
実施主体	- 安城市 - シーホース三河※
取組名称	アリーナのつかい方ワークショップ
参加者	市内在住・在勤・在学の方（各回40名程度）
募集方法	市HPに応募フォーム（QRコード）を掲載
実施目的	- アリーナ完成後の使い方に関する意見収集 - アリーナやまちへ理解を深めることを通じた、当事者意識の醸成
実施時期	設計期間中

※シーホース三河は、アリーナ完成後にホームチームとなる予定のBリーグチーム



出所：安城市HP

サポーター向けワークショップ事例

● みんなのFC琉球かいぎ

項目	概要
実施主体	FC琉球
取組名称	みんなのFC琉球かいぎ
参加者	FC琉球のファン・サポーター・スポンサー
募集方法	FC琉球HPに申し込みフォームを掲載
実施概要目的	クラブとファン・サポーターが共同でアイデアを出し合うことにより、うむさん（面白）なFC琉球コミュニティの形成を目指す
開催頻度	- 月1回程度 ※2024年3月に第1回会議を開催、2025年1月に第11回会議を開催



出所：FC琉球HP

12

13 県民・地域住民と“ともに”育てるスタジアム

★ “ともに”育てるスタジアムに向けた取組イメージ

整備計画への反映、要求水準書の参考資料とし提案を促すことを目指す

整備計画の策定段階（現段階）

《 スタジアムのつくり方 》

取組内容

ワークショップ／住民説明会

想定するテーマ

- ・スタジアム整備にこんな風に関わってみたいな
- ・沖縄らしいスタジアムとは？
- ・スタジアムや広場エリアがこういう場となればいいな 等

収集した意見を事業者の提案へ反映することを目指す

《 スタジアムのつくり方・つかい方 》

事業者選定段階

取組内容

・ワークショップ／シンポジウム

想定するテーマ

- ・スタジアムや広場エリアにこんな施設があるといいな
- ・広場エリアやピッチ、コンコース等をこうゆう風に日常利用したいな
- ・こんなイベントができればいいな 等

13

13 県民・地域住民と“ともに”育てるスタジアム

★ “ともに”育てるスタジアムに向けた取組イメージ

収集した意見を事業者の設計へ反映することを目指す

《 スタジアムのつくり方・つかい方》

取組内容

- ・ ワークショップ

想定するテーマ

- ・ 広場エリアやピッチ、コンコース等をこういう風に日常利用したいな
- ・ こんな試合が盛り上がる演出があったらいいな
- ・ こんなシートバリエーションがあったらいいな 等

スタジアムの設計・建設段階

当初整備時の運営段階

段階整備に向けてスタジアム利用者の意見を収集する

《 スタジアムのつかい方》

取組内容

- ・ ワークショップ

想定するテーマ

- ・ 使ってみたらスタジアムのこんな課題があるな
- ・ こんな段階的な整備がといいな
- ・ 奥武山公園がこうなるといいな 等

収集した意見を段階整備時の要求水準書参考資料とすることを目指す

《 スタジアムのつかい方》

取組内容

- ・ ワークショップ

想定するテーマ

- ・ どのようなサイドスタンドがいいかな
- ・ 段階整備の工事期間中はこんな配慮があるといいな 等

段階整備の計画段階

段階整備完了後も、県民・住民が意見を発信できる場を設け、
スタジアムをより良い場所とする

14



最終的な整備イメージ図

沖縄県文化観光スポーツ部 MICE推進課のホームページはこちらから

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/bunkakoryu/sport/1009758/1026701/index.html>

15